

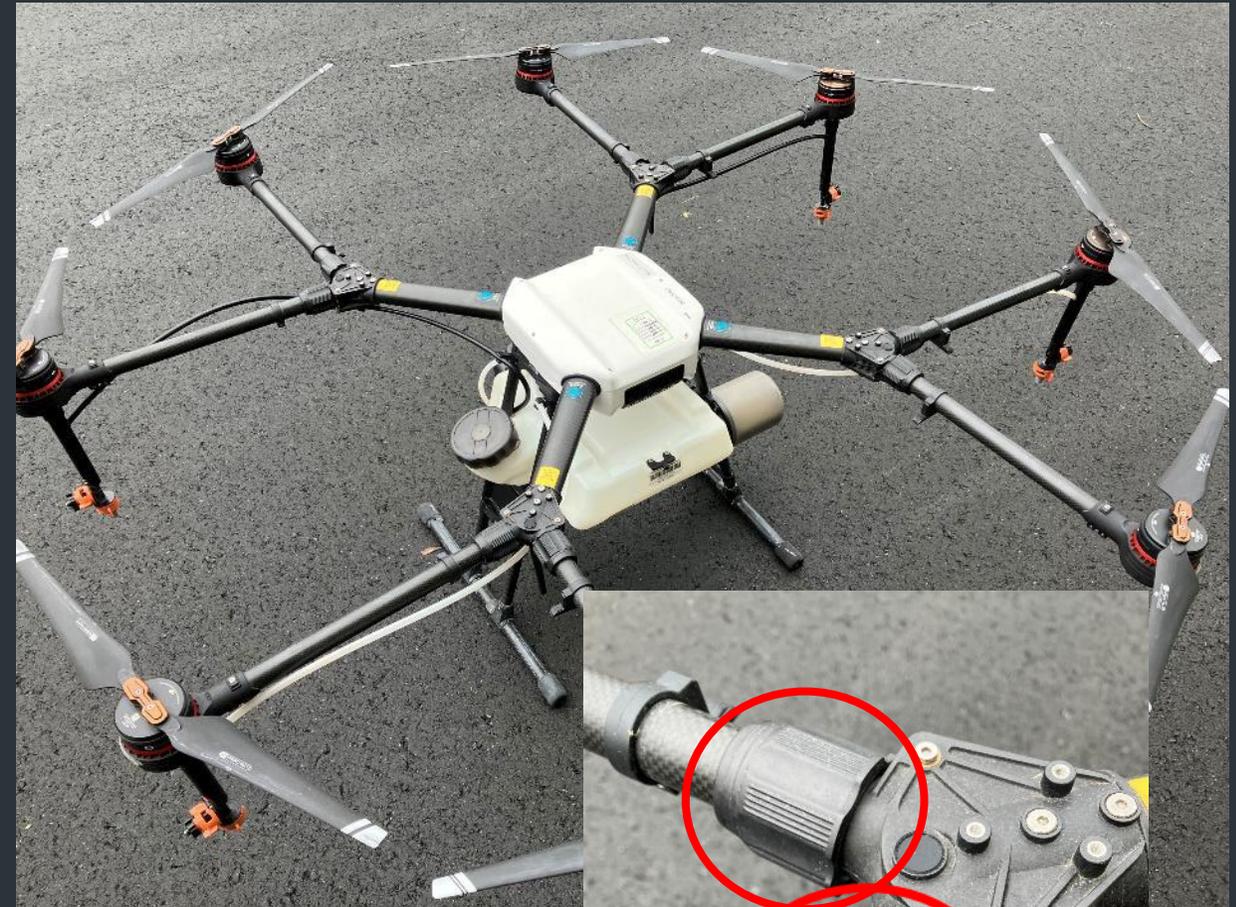
# MG-1マニュアル (飛行前)

イノチオプラントケア株式会社

# 1.機体を展開する

アームを展開し、アームスリーブをしっかりと締め、プロペラを広げる

※プロペラが畳まれたままモーターを始動すると遠心力でモーターが振動し、破損や故障の原因となる



アームスリーブ

## 2.送信機の準備をする

電源スイッチを短押し→長押しして起動する。  
成功すると起動音が鳴る。



電源スイッチ



画面スリープ/スリープ解除ボタン

## 2.送信機の準備をする

アンテナが真っすぐ、先端が寄っている

送信機のアンテナは少し曲げ、  
平行になるようにする。  
操作時にアンテナの面が機体  
に向くように角度を調整する。

アンテナは平行に、面が機体に向くように角度調整



### 3.機体の電源を入れる

機体側とバッテリー側のコネクタ部分に汚れや水濡れがないか確認し、素早く最後まで挿し込む。半挿しの状態だとショートしてしまうので注意。

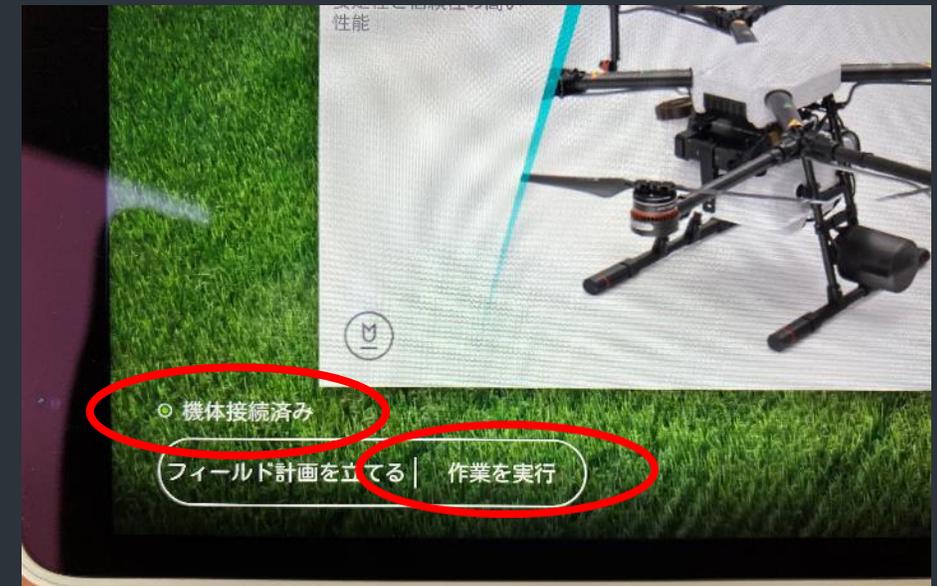
起動に成功すると、起動音が鳴る。

送信機のステータスLEDが赤から緑に変われば接続成功。

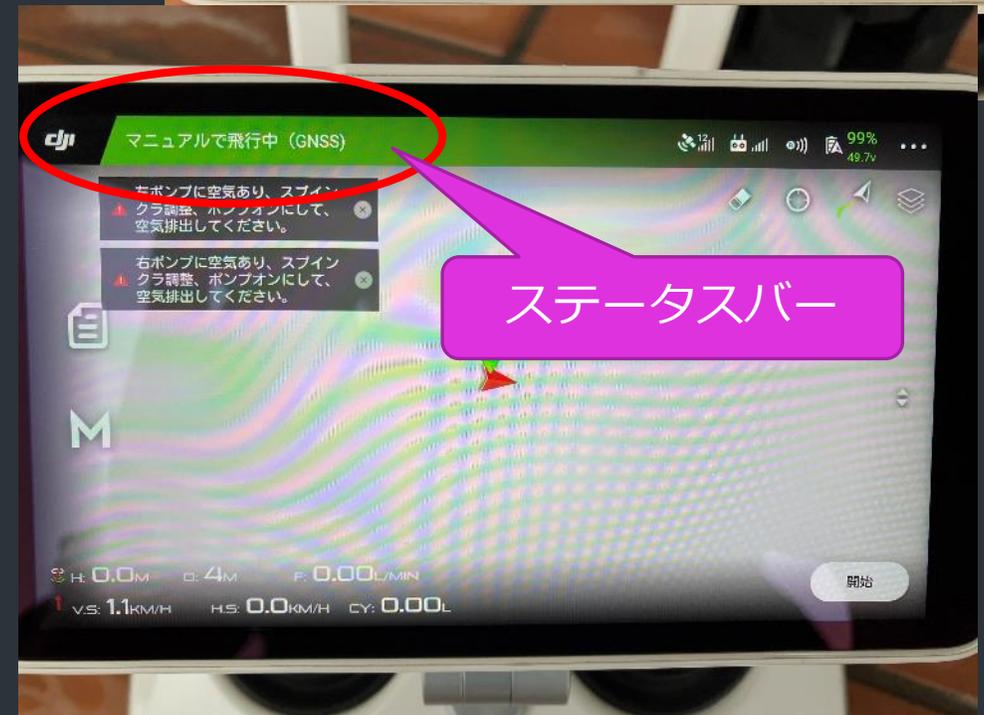


## 4.接続を確認する

「機体接続済み」と表示されていることを確認し、「作業を実行」をタップして操作画面に移行する。



しばらく待機していると、GPSを自動で取得し、ステータスバーが緑に変わり、「マニュアルで飛行中 (GNSS)」と表示される。



## 5.コンパスチェック・校正

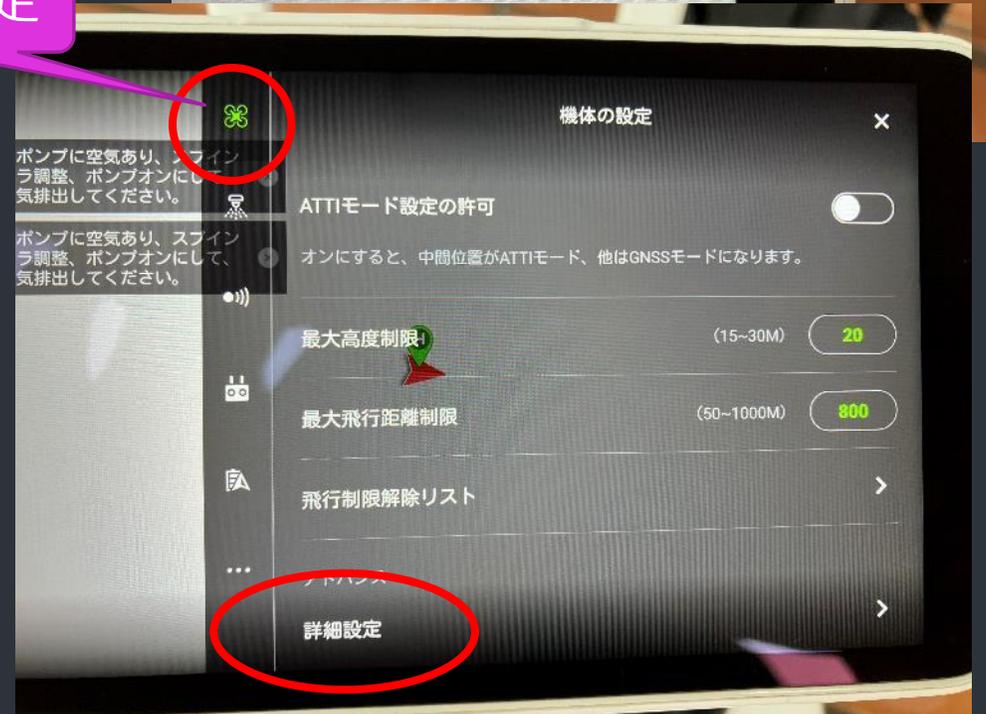
ディスプレイ上部右側の  
「…」をタップ



「機体の設定」内の  
「詳細設定」をタップ



機体の設定



## 5.コンパスチェック・校正

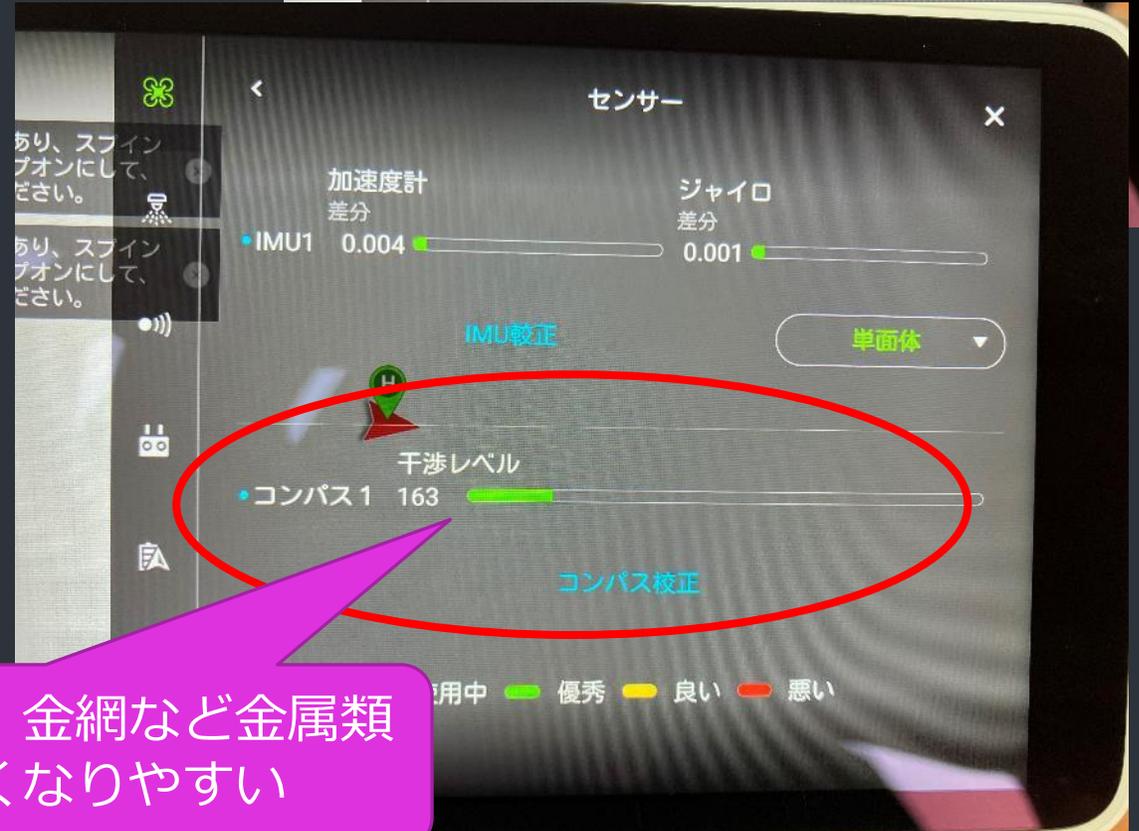
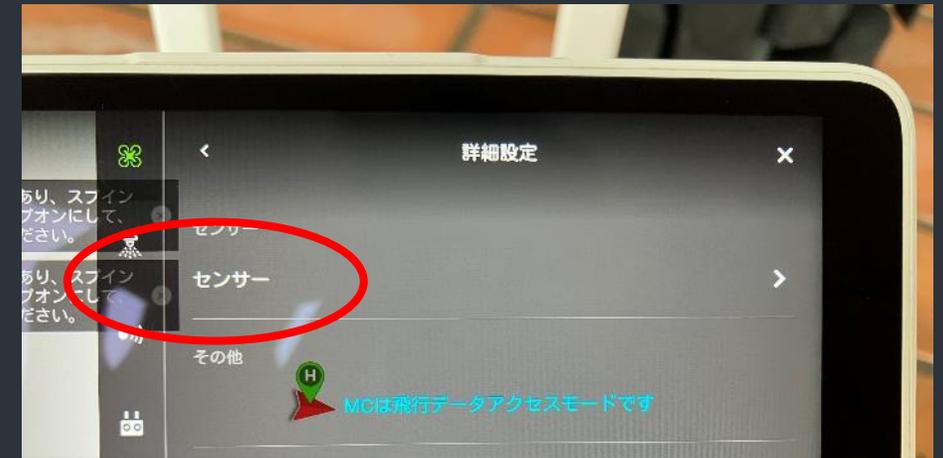
「センサー」をタップ



「コンパス1」の数値を確認する。  
数値が小さく、バーが緑なら良好。

数値が大きく、バーが黄や赤のときは機体を移動して再確認する。  
改善しない場合は「コンパス校正」  
をタップし、画面の指示に従って  
キャリブレーションを行う。

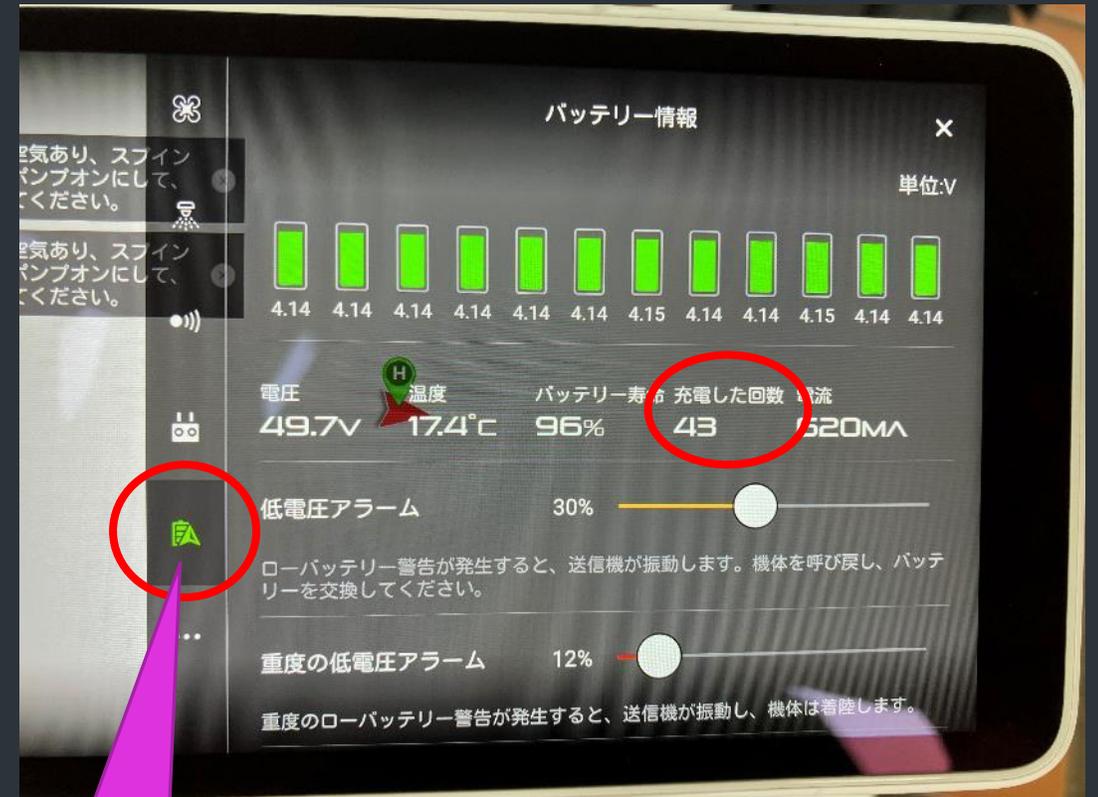
マンホール、鉄板、金網など金属類  
の近くで大きくなりやすい



## 6. バッテリーの確認

「…」 → 「バッテリー情報」をタップ

12個のセルが表示されるので、それぞれの電圧の数値の差を確認する。  
(正常時誤差~0.03程度)  
何か異常がある、または「充電した回数」が「180」を超えている場合はそのバッテリーの使用を控える。



バッテリー情報

## 7.ポンプのエア抜き

タンク内に液剤を投入し、2のように圧力弁を右に捻る。少し引っ張りながら捻るとやりやすい。全てのノズルの圧力弁を開き、散布ボタンを押して吐出を開始する。全てのノズルから液剤が吐出されたら、散布を止めて圧力弁を縦に戻す。

散布は1の状態で行う。



散布ボタン



通常時(縦)



エア抜き時(横)

## 8.飛行前最終確認

機体のアームスリーブがすべて  
しっかり締まっているか、  
プロペラはすべて開いているか  
再確認する。

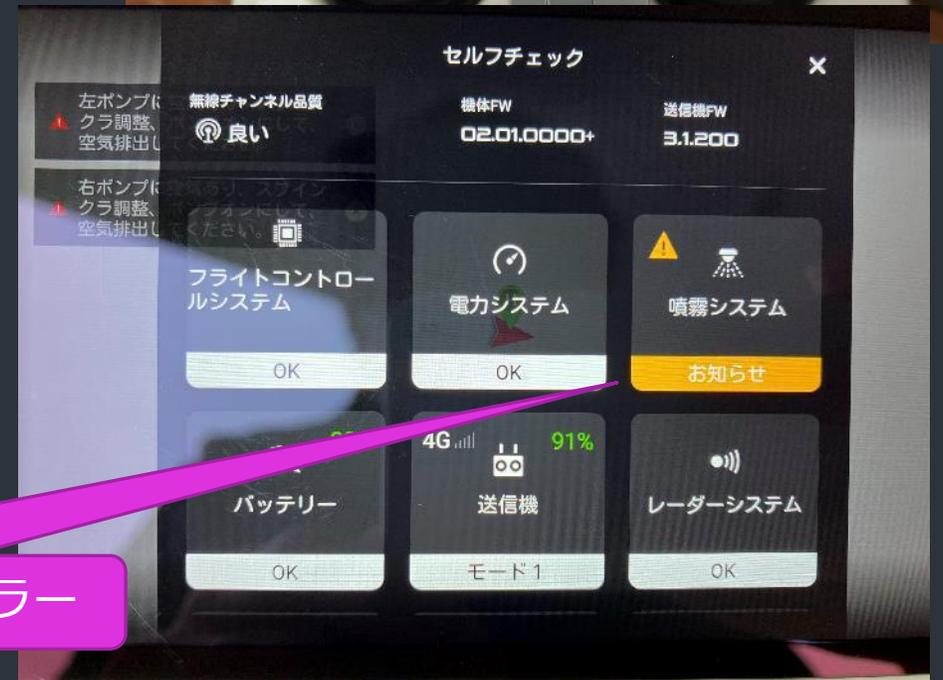
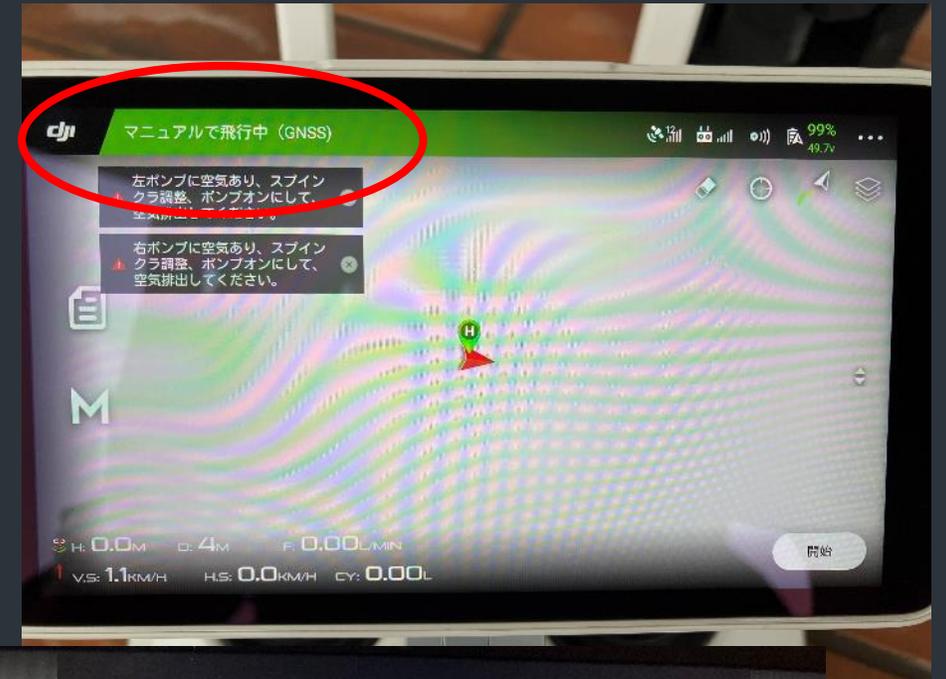
※アームスリーブの締め忘れによる  
墜落事故が多発しているため、特に  
注意



## 8. 飛行前最終確認

ステータスバーの文字をタップすると、「セルフチェック」が表示される。

何かエラーがある場合、該当のシステムが黄や赤で表示される。(画像ではポンプ内に空気が入っているため、黄色で「お知らせ」と表示されている。エア抜きをすることで改善。)



ポンプ内に空気が入っているためエラー

## 8. 飛行前最終確認

- ▶ 人や車が近づいてきていないか、真上に低い電線がないかなど周りの状況を確認し、安全を確保してから飛行を開始する。
- ▶ 必ず機体の真後ろに立って操縦する。  
対面だと前後左右が反転するため、  
操作ミスによる重大な事故を引き起こす  
原因となる。

ポンプがオペレーター側、障害物回避レーダーが左側に来る位置を保つ→

